

# 小規模校における総合的な学習の時間のモデル開発 —子どもたちによるふるさと祭りと芸能のアーカイブを目指して—

福島県教育センター情報化推進研究チーム 指導主事 島 和宏

jyugyouni\_it@ml.fks.ed.jp

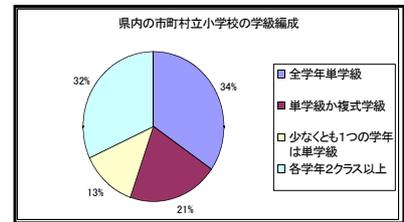
http://www.center.fks.ed.jp/05ken3/maturi/

キーワード：情報化推進，総合的な学習の時間，カリキュラム開発，e-Learning

## 1. はじめに

専門性の高い学習を実施する時、専門家による授業に効果が期待できる。しかし、福島県の全ての学校・学級に専門家が出向いて授業を行うことは難しいと言える。そこで、本チームでは、専門家を取り込んだ学習をコーディネートし、多くの学校に提供するために、ITを活用した授業支援のあり方を研究し、そのモデルの開発を行うこととした。

福島県は、広い県土の中に、地域特有の多様な文化を有している。その地域のよさを子どもたちに気づかせるため、総合的な学習の時間に焦点を当てた。モデルの開発に当たっては、ITネットワークによる学習効果を追求するため、比較的小規模な学校に協力いただき、それらの学校における子ども間の学習交流についても検証していく。

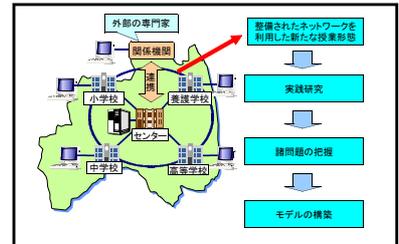


## 2. 研究の概要

### (1) 追究する「支援」の要件

県内の小学校に専門家と連携した授業を提供するには、以下の要件を満たす必要がある。

- 県内の学校すべてに等しく提供できる授業支援であること
- 専門家による指導が効果的に子どもたちの学習につながる支援であること
- 実際に授業を行う教師の主体性を促す支援であること
- 比較的小規模な学校において子どもたちの学び合いを大切にしたい支援であること



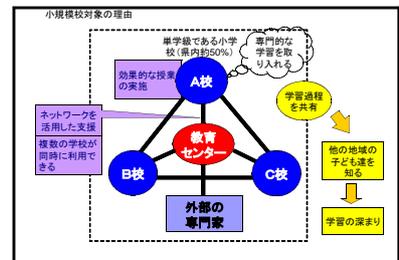
### (2) 研究内容

県内の多くの学校が等しく授業支援を受けることができるように、授業を支援するWebサイトを構築する。そして、本チームがコーディネーターになり、専門家の指導をわかりやすく「オンデマンド動画」で視聴できるようにした。

そのWebサイトからは、情報を提供するだけでなく、子どもたちの理解できないことを、専門家に直接質問できるように「掲示板」を設置した。また、比較的小規模な学校の子も同士が交流学习できるようにした。

専門家による指導を可能にする研究ではあるが、子どもたちに直接指導するのは担任である教師である。そこで、教師にはあらかじめWebサイトを見てもらい、指導計画の作成を要請した。さらに、指導を担当する教師間で、指導の方向性について理解を深めるために、専門家と指導者、指導者間の情報交換の場も設置した。

学習が展開すると、互いの学習の状況に違いが出てくる。それぞれの学校の取り組み方を参考にできるように、調べ学習の様子や子どもたちの体験したことをWebサイトに掲載した。



### (3) 開発した教材

本研究にかかわり開発した教材の詳細を示す。

#### ○オンデマンド教材

専門的な知識・技能を有する外部講師の協力による指導映像と説明や補助画像資料をオーサリングソフト (StreamAuthor2.0) により教材群として開発した。教材はサーバに蓄積し、ネットワークを通して研究校がいつでも学習に利用できるようにした。

#### ○教師用資料

協力を得た専門家から著作を利用する許諾を得て、学習を進める上で参考に

